

第19号

2026

しらさぎ

新年のあいさつ

手術支援ロボット「ダビンチ」導入

災害対策合同訓練





JCHO埼玉メディカルセンター
こだま たかお
院長 児玉 隆夫

令和八年

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

新しい年を迎えるにあたり、皆さまに謹んでご挨拶申し上げます。昨年は、社会全体がさまざまな不確実性に向き合う一年でしたが、そのような中でも当院の医療は地域の皆さまの温かい支えにより、着実に前へ進むことができました。日頃より当院に寄せていただいている信頼に、改めて深く感謝申し上げます。

当院には20年近い歴史をもつ人工関節センターをはじめ、手外科センター、脊椎脊髄病センター、結石センターなど、専門性の高い医療を提供する体制があります。これらのセンターは昨年も順調に手術件数を伸ばし、患者さまからの期待に応える形で大きく発展しています。さらに、新たに立ち上げた「骨粗鬆症診断と治療センター」も地域医療への貢献を確実に広げつつあり、予防から治療まで切れ目のない支援ができる体制が整ってきました。

そして、昨年12月3日には当院で初となるダビンチ手術が実施されました。これは当院の外科・泌尿器科にとって大きな節目であり、本年はこれらの診療科がさらに飛躍する一年になることが期待されます。ロボット手術は必ずしも“華やかな最新技術”というだけでなく、術後の痛みや負担を軽減し、患者さまの生活の質を高めるための重要な手段です。こうした新たな取り組みが安全に根付き、地域の方々の安心へとつながるよう努めてまいります。

世の中ではAIやデジタル技術が大きな注目を集めていますが、当院では華々しい変革よりも「患者さまにとって確かな医療を提供すること」を何より大切にしています。新しい技術を追いかけるだけでなく、長年培ってきた臨床力と丁寧なケアを土台に、一歩ずつ現実的な前進を積み重ねることこそが、地域に根ざした医療のあるべき姿だと考えています。

本年も、医療安全と感染対策を最優先に、職員一人ひとりが専門性を発揮しながら、より質の高い医療を追求してまいります。「困ったときのJCHOさん」と言っていただける病院を目指し、急性期から回復期、在宅支援まで、切れ目のない地域医療に取り組んでまいります。

皆さんにとって、この一年が健やかで希望に満ちたものになりますよう心よりお祈り申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。





手術支援ロボット 「ダビンチ」 の導入について

外科医長 牧野 曉嗣

このたび当院では、手術支援ロボット「da Vinci Xi」を導入し、2025年12月に初めて大腸がんに対してロボット支援下手術を実施しました。初例は大きなトラブルなく安全に施行でき、ロボット手術に必要な体制づくりも順調に進んでいます。導入準備に関わってくださった多くの職員の皆さんに、改めて感謝申し上げます。

ロボット手術は、3D高解像度視野や手ぶれのない精密な操作性を備えており、従来の腹腔鏡手術よりも、さらに安定した繊細な処理が可能となる点が特長です。患者さまの身体的負担を軽減し、術後回復がスムーズになることが期待され、より質の高い低侵襲治療の提供につながるよう取り組んでいます。

現在は大腸がん手術を対象に外科で運用を開始していますが、今後は泌尿器科領域の前立腺がん手術にも導入を予定しています。より多くの患者さまにロボット手術を提供できるよう、診療科を越えて体制を強化してまいります。

導入に合わせて周知活動にも力を入れています。正面玄関や外来、手術室でのポスター掲示に加え、ロボットを実際に操作していただく「ダビンチ体験会」を開催したところ、多くの職員の方々に参加いただきました。ロボット手術の仕組みやメリットへの理解が深まったとの声も寄せられ、ロボット手術を支えるチーム医療の重要性を改めて共有する機会となりました。体験会は、随時開催予定ですので、ぜひご参加いただき、ダビンチを身近に感じていただければと思います。

今後は地域の医療機関や患者さまへの情報発信もさらに進めていきます。日常診療や生活の中で、ロボット手術が適する方はもちろん、手術や治療について相談したい方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介いただければ幸いです。引き続き、安心・安全で質の高い医療を提供できるよう努めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。



はじめての さいたま市浦和区との、 災害対策合同訓練を 行いました。

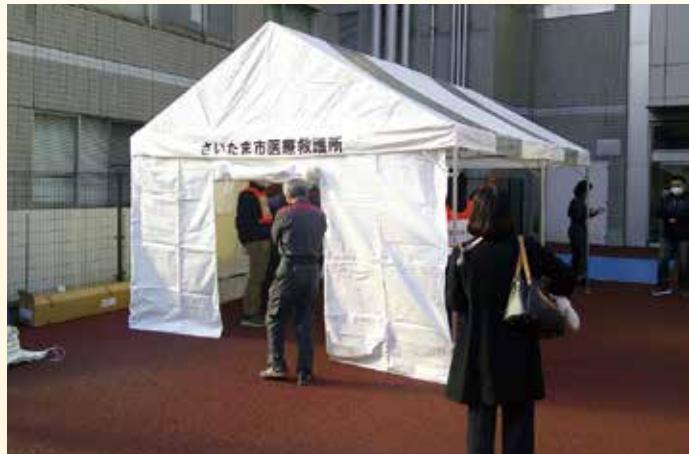


救急科診療部長 和田 浩

先日令和7年11月15日土曜日当日午前9時に、はじめてさいたま市浦和区の医療救護所を併設した、行政・病院・企業・地域医療団体の一体型災害対策合同訓練が、当院駐車場を中心に行われました。当日は晴天にも恵まれ、職員・浦和区役所・模擬患者含め、総勢100名以上の方が訓練に参加しました。

従来の防火防災訓練は、病院と自治体とで別個に行われてきました。しかし近年の東日本大震災や能登半島地震のように大規模地震災害では、多くの方がや病気で医療を要する傷病者が、地域拠点病院周辺に殺到することがよく知られています。道路が寸断され孤立した状態で、重症から軽症まですべての被災者を、一つの病院のだけで受けきることは不可能です。そこでさいたま市では現在、行政と病院と企業と地域医療団体が協力して対応にあたる方策が、各区単位ですすめられています。

当院では従来行われていた院内防火防災訓練を、浦和区役所の訓練日に合わせて、同一日に連動して行うことへと発展・昇華させました。当院はすでに、県内に13か所ある埼玉県災害時連携病院として、埼玉県地域D M A T 災害医療チームも保有しています。



さいたま市医療救護所設置の様子



災害対策本部にて被害状況の確認

今回、浦和区役所・トヨタ自動車株式会社・社会医療法人浦和医師会・さいたま市薬剤師会とともに、模擬患者を用いて、軽症・中等症・重症を振り分け（トリアージ）、応急処置を行いました。

さいたま市医療救護所とは、震度6以上の際に埼玉県知事またはさいたま市長により発令される、地区ごとの軽症者向けの医療救護所のことです。さいたま市では発災時に浦和区を含む計10区ごとに設営されます。災害時に病院機能の低下を来たさないように、軽症患者を駐車場などの病院外のテント内で、浦和区役所と地域医療団体が引き受けます。

当日は埼玉トヨタ自動車株式会社のご協力により、電源となる電気自動車と、投光器と送風機も設置されました。医療救護所内の医療スタッフは、社団法人浦和医師会と、さいたま市薬剤師会と、浦和区役所保健師が、軽症者のテント内やブルーシート上の処置・処方にあたりました。中等症と重症は、病院内でわたしたちが入院患者の応急処置にあたりました。

災害時も安心安全の地域医療を支える病院であるため、来年もまた11月頃に訓練を行い一般開放も行う予定です（もしも雨天の場合は院内代替場所で行う予定です）。お時間のあるかたは、当院駐車場まで気軽に見物・見学にぜひ足をお運びください。



模擬患者は看護学生の皆さんにご協力いただきました。



埼玉トヨタ自動車(株)様により電気自動車と投光器・送風機が設置されました。



トリアージ後、院内へ搬送しています。



災害対策合同訓練に参加して



さいたま市 浦和区役所 総務課長 山本 伸恵

このたびは、埼玉メディカルセンターをはじめ、浦和医師会、さいたま市薬剤師会、埼玉トヨタ自動車株式会社の皆様とともに医療救護所設置訓練を実施させていただき、誠にありがとうございました。

災害時における医療救護所の迅速な設置と運営は、地域住民の命を守るうえで極めて重要であり、今回の訓練を通じて、医療機関や関係機関との連携の強化や、実務的な課題の共有ができたことは、非常に有意義であったと感じております。

病院職員の皆様の専門的な知識と的確な対応により、訓練は円滑に進行し、区職員にとても多くの学びと気づきを得る貴重な機会となりました。

今後とも、地域の安全・安心のため、医療機関の皆様と連携を深めながら、防災体制の充実に努めてまいります。

引き続きご指導・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



一般社団法人浦和医師会 災害対策担当理事 星野 徹
(医療法人博仁会共済病院院長)

令和6年正月の能登地震は衝撃的でした。埼玉でも関東大震災のような大地震がいつ起こってもおかしくありません。浦和医師会ではさいたま市地域防災計画に基づいて、災害時における活動を円滑に行うための医療救護計画に取り組んでおり、大規模災害の発生から速やかに各区内に医療救護所を立ち上げ、救護班を編成することも計画されています。

先日、実施された災害対策合同訓練において、医療救護所の設置訓練も併せて行われました。浦和医師会から私も参加し救護所の物品・器材の確認、模擬受傷者の診療の流れの確認などにあたりました。

今回は大掛かりな災害対策合同訓練で本番さながらに対策本部も設置されており、大規模災害の発災時にも市民の安全と生命を守るのだという大勢の職員の皆さんのが感じられました。訓練を通じ日ごろからの備えの大切さを心に刻みました。

今回の浦和区での病院前救護所訓練では、救護所テントの立ち上げ・電源車両の設置・トリアージポストから患者受入れ、関係機関との連携確認まで一連の流れを実践的に体験でき、大変有意義でした。一方、情報共有のタイムラグや医薬品の交付の問題なども課題として挙がってきており、次年度の訓練ではその課題の解決にも協力したいと考えております。さいたま市薬剤師会では e S T - a i d という仕組みを導入し、災害時の薬局の開局・在庫状況が把握可能です。将来的にはこの仕組みと対策本部の情報を連動させていきます。どうぞご協力よろしくお願ひいたします。

災害対策合同訓練後は、 夜間を想定した火災避難訓練を実施しました。



屋内消火栓を使用し、初期消火を行う様子



非常階段を使用して避難訓練を行いました。



最後に駐車場にて水消火器による消火訓練を行いました。



診療のご案内

診療日	月曜日～金曜日					
受付時間	新患受付：午前8時30分より11時まで 自動再来受付機：午前7時40分より11時まで（11時以降は予約患者様のみ受付します）					
休診日	土・日・祝日および、年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）					
診療科	月	火	水	木	金	場所
内科	○	○	○	○	○	1階南館玄関奥
外科	○	○	○	○	○	本館1階（外来A）
乳腺外科	○	休診	○	○	○	本館1階（外来A）
脳神経外科	休診	○	休診	休診	○	本館2階（外来E）
整形外科	○	○	○	○	○	本館1階（外来B）
産婦人科	○	○	○	○	再診のみ	本館2階（外来F）
小児科	○	○	○	○	○	本館2階（外来F）
眼科	○	○	○	○	○	本館1階（外来C）
耳鼻咽喉科	○	休診	○	○	○	本館2階（外来E）
皮膚科	○	○	○	○	○	本館2階（外来E）
形成外科	○	○	○	○	○	本館2階（外来D）
神経精神科	予約患者のみ					本館2階（外来D）
泌尿器科	○	○	再診のみ	○	○	本館1階（外来A）
腎センター	○	○	○	○	○	本館1階（外来B）
放射線治療科	予約患者のみ					本館1階（放射線科奥）

※初めて当院を受診される方へ

他の医療機関からの紹介状をお持ちでない患者様は、初診時選定療養費として別途7,700円をご負担いただきます。

※内科・腎センター・産婦人科は紹介状をお持ちの方のみとなります。

※乳腺外科・皮膚科の初診は完全予約制となります。



独立行政法人 地域医療機能推進機構
埼玉メディカルセンター

〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和4丁目9番3号
TEL 048-832-4951(代) FAX 048-833-7527 <https://saitama.jcho.go.jp/>